

コクチバス駆除作戦の実施報告

H26年8月30日(土)

埼玉新聞

2014年(平成26年)8月28日(木曜日)

コクチバスを駆除

比企の川づくり協議会(渡辺仁代表)は、30日午後10時半から、東松山市上唐子・神戸の都幾川鞍掛橋周辺で、「都幾川水系コクチバス撲滅作戦」を実施する。武蔵漁業協同組合との協働事業。特定外来生物に指定され、在来の魚種を食べて

30日 東松山市 都幾川で実施

しまつコクチバスを投網で捕らえて駆除する。同会では2011〜13年度、コクチバスの実態調査、コクチバスの放流禁止を訴える看板を槻川(小川町)、都幾川(鞍掛橋)に設置している。参加希望者は、水に入る服装・靴、日よけ帽

史) 子、昼食、飲み物の持参を。参加費は無料。当日は午後2時ごろまで実施する。渡辺代表は「参加できる人はぜひ参加を。投網を持っている方の参加はありがたい」と話している。問い合わせは、渡辺さん(☎090・5573・1028)へ。(タウン記者・山本正史)

8月28日 埼玉新聞に「枠付き」で掲載された記事

1. 参加人員

協議会からの参加者は、下の写真左から順に日下さん、上野さん、山本さん、白石さん、澄川さんの6名です（撮影者は、渡辺です）。他に城西大学理学部の石黒准教授（生物資源学 Doc.）親子が飛び入り（埼玉新聞を見て）参加していただきました。



写真1. 作業開始前に都幾川鞍掛橋（右岸）集まった、コクチバス「屠殺人」の面々。
中央の山本さんが持つ板は、今後下流の稻荷橋に掲げる予定の「放流禁止の看板」。

2. 作業風景

持ち寄った投網の数は3本。打ち手は、武蔵漁業協同組合の監視員を兼務する白石さんからの指導をうけ、前日の雨で若干増水した鞍掛堰の下流（水深：50cm～120cm）で作業を開始した。



写真2. 流速は普段より早い状況で、徒渉に注意しながら…。白石さんの見事な投網です。



写真3. かった魚類をコクチバス、在来魚に仕分けて、バケツ・魚籠に回収（日下さん）。

3人のうち手は上流・左岸側に徒渉して、生息地をめぐらして素早い腰の回転と打ちこみを続けた。



写真4. 澄川名人の目にも止まらぬ速さの投擲（渡辺カメラマン、シャッターが切れず！！）

鞍掛堰を流れる用水路は、本川よりも深い所（1.5m～2.0m）だが、その分大型のコクチバス成魚も見かけられるので、積極的にトライすることになった。但し、用水堰護岸のフトン籠工の番線残骸や木質沈埋物の障害物が多く、その分、網を引っ掛けるケースが多くなった。



写真5・6. 連続写真は、上野名人の投擲です。完全な円形にはなっていませんが、キャリアが長い分だけ、漁獲高は確実に確保していました。

3. コクチバス駆除成果報告

11:00~15:00まで(昼休みは、1時間)、3人で約3時間の間に採捕されたコクチバスの総個体数は43匹でした。最大で11cm、最小で5cm級でしたが、全て今年の5~6月頃に産卵床から孵った稚魚と思われます。成魚20cm級は採捕出来なかったが、投網による駆除作業は、(投網の腕前にもよるが)かなり有効であることが分かりました。

殺処分した全てのコクチバスは、「市野川水系の会 in 滑川町」の方々に、唐揚げにして食べてしまうということで、ビクに入れて持ち帰りして頂きました。



写真7. バット上に採捕・殺処分されたコクチバスの稚魚群

一方、在来種はオイカワ、カワムツ、タモロコ、カマツカ、ウグイ等と一緒に投網で採捕され、オイカワが最も多かった。他の要注意外来生物としては、タイリクバラタナゴも採捕された。在来種は全て、東松山市立新宿小学校ミニ水族館（5水槽）へ、寄付の予定になっている。



写真8. 小学校は、夏休・土日で完全閉校のため、渡辺宅の60cm水槽（急ごしらえ）に一時保管された在来種たち（15匹）。以上